

〈シナイ山で神と出会うイスラエルの民〉

エジプトから救い出された神の民イスラエルは三ヶ月目、シナイの荒れ野に到着し、その山で神と契約を結び、主との新しい関係に生きる者とされました。神の民は山に向かって宿営し、モーセは神のもとに登って行きます。そこで、主なる神は言われました。「あなたたちは見たでしょう。わたしがエジプト人にしたこと、また、あなたたちを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れてきたことを」。神は大いなる御手と御業によってご自分の愛する民をエジプトの支配、奴隷の地よりお救いくださったのです。それゆえに今、あなたがたはわたしの声に従い、わたしの契約を守りなさい。そうすればあなたたちはすべての民の間にあってわたしの宝となる。あなたたちは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。強大なエジプトの支配と力の下にあっていと小さき民であったイスラエルの民を救い、彼らをご自身の宝の民とすると言われるのです。驚くべき言葉です。そうであればこそ、この神の御声に聞き、契約の言葉に従う聖なる民であるべきです。

主はご自分と出会う民が自ら汚れを洗い、聖別するよう命じられました。臨在の前での聖さを求められたのです。また、民が山に近づくかぬよう命じ、ただ仲保者として立てられたモーセだけが主の臨在に近づくことが許されました。

こうした中で、雷鳴と稲妻と厚い雲、激しい嵐のような異常な光景と現象の中で主はシナイに降られ、モーセを通してご自分の民イスラエルに契約の言葉をお与えくださったのです。

〈十戒、十の恵みの言葉を主から受けて〉

こうして、与えられたのが十戒です。十戒は十の言葉と言われる契約の法です。契約の法ですから、契約の主が誰であるか、どのような意図をもってこれが与えられたか、そして契約の内容とそれを守った者に対する祝福、これに背く者に対する審き、呪いが語られています。

まず、序言と言われる部分で神の自己紹介が語られます。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」。これは契約の法である十戒をお与えくださった方がどのような方かを示す言葉です。この序言は十戒全体を支えている重要な宣言です。これを抜きに本文を読むことは、まさに律法主義への危険な落とし穴があると言えるでしょう。

十戒は前半、3節から11節までは神と人との関係、後半12節から17節までは人と人との関係が教えられています。主ご自身が、律法の中心は「神を愛することと隣人を愛すること」であると要約されました。

第一の戒め、「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」は、十戒の根本的な戒めです。これは、「あなたには他の神があるはずがない」という強い排他性、神とイスラエルとの深い契約的結びつきの中で語られる言葉です。だからこそ、第二の戒め、「あなたはいかなる像も造つてはならない。……わたしは熱情の神である」も、意味を持ってきます。「熱情」は「妬み」とも訳され、神のご自分の民に対する主権と熱愛が擬人的な仕方で示されています。第三の戒めは神の啓示への畏敬。第四の戒めは礼拝日の聖別。

後半、人と人との関係の最初に第五の戒め「あなたの父と母を敬え」が語られています。それは十戒の前半と後半を結ぶ橋渡しの役割を持っています。両親は子を養育し、信仰に導くための神の代理者です。子は親を通してみ言葉に聞き従うよう訓育を受けるのです。第六の戒めは命の保持。第七は結婚関係の聖さの保持。第八は所有関係の保持。第九は偽りの証言の禁止。第十の戒めは隣人の所有を巡るむさぼりの禁止です。

恐るべき光景と異常な現象の中で、十戒の言葉を受け、恐れる民に、モーセは言いました。「神はあなたたちの前に神を畏れる畏れをおいて、罪を犯させないようにするためである」と。

(国方敏治)

テキスト 出エジプト記 19章1節～20章21節
参照カテキズム 子どもカテキズム 問39, 40

〔単元のねらい〕

「単元の目標」に「律法を持つ幸いを味わおう」とある。そのために求められることこそ、十戒が「愛と恵みの言葉」であることをあらためて確かめることであろう。その際に大切なことは、十戒の「前文（序文）」とおのおのの戒めとを切り離さないことである。あわせて、十戒が（旧約のイスラエルにだけ語られたというのではなく）今わたしたちの命を守り支える言葉であることをもしっかりと語りたい。

「十戒—愛の言葉」

エジプトを出てから三か月め、シナイの荒れ野に着いたとき、神さまはご自身をイスラエルの民にあらわしてください、シナイ山からみ声を聞かせてくださいました。このときに、十の戒めを授けてくださったのです。

日曜学校の礼拝でも、みんなで十戒を唱えることがあるかもしれません。今日は十戒について学びたいと思います。

十戒は子どもカテキズムにも記されていますから、そこを開いてもういちど確かめてみましょう。十の戒めは、次のとおりです。

1. あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。
2. あなたはいかなる像も造ってはならない。
3. あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
4. 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
5. あなたの父母を敬え。
6. 殺してはならない。
7. 姦淫してはならない。
8. 盗んではならない。
9. 隣人に関して偽証してはならない。
10. 隣人の家を欲してはならない。

これらの戒めを読んでみて、あるいは声に出して唱えてみて、皆さんはどのように感じたでしょうか。「～してはならない」「～してはならない」と続きますから、もしかすると厳しい、堅苦しい命令のように感じたかもしれません。

けれども、よく覚えておいてください。十戒は愛のみ言葉です。十戒には神さまを信じて生きる民へのあふれるばかりの愛がこめられているのです。

十の戒めを語られるにあたって、神さまはこのように仰せになりました―「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」。

エジプトの国にいたとき、イスラエルは奴隷の苦しみの中にありました。神さまはイスラエルをその奴隷の苦しみから救い出して、自由にしてくださいました。イスラエルを愛しておられたからです。

そして今、神さまが十の戒めをイスラエルに授けてくださったのも、愛のゆえです。神さまは愛する民を奴隷の苦しみから救い出してくださっただけではありません。愛する民が幸せに生きることができるよう、命の道を歩き続けることができるように、ご自身のみ言葉を与えてくださったのです。

今、イスラエルは荒れ野を旅しています。荒れ野は厳しい場所です。食べ物がなくて飢えたり、飲み水がなくて喉の渇きを覚えたりすることもしばしばです。突然、獣が襲ってくることもあるでしょう。もしもイスラエルが何も持たずに荒れ野の真ん中に放り出されてしまったなら、どうであったでしょうか。心細くてたまらなかったと思

います。

けれども神さまは十戒を備えてくださいました。これらのみ言葉に従って歩むなら、荒野の真ん中にあっても何の心配もないのです。どんなことがあっても、何が起こってもだいじょうぶなのです。神さまがみ手をもって守ってくださるからです。

十戒は厳しい命令などではありません。愛の守りのみ言葉です。もし皆さんが車のひっきりなしに通っている道路に飛び出そうとしたら、お父さんやお母さんは黙って見ているのではないでしょう。あぶないから気をつけなさい、と声をかけてくださるにちがいありません。それは、皆さんを愛していて、皆さんの命を守ろうとするゆえです。

十戒も同じです。神さまのみ声に聞き従うとき、愛の神さまはわたしたちの命を守ってくださるのです。

十戒は旧約聖書の時代のイスラエルの民だけに与えられたというわけではありません。今わたしたちにも与えられています（ですから、日曜学校で十戒を唱えることはとてもすばらしいことです）。神さまはわたしたちをも愛しておられます。

神さまに救われたわたしたちは、救いの喜びに満たされ、感謝の思いにうながされて、神さまのみ声に聞き従います。神さまを愛するとは、十の戒めを守り行うことです。そのとき神さまはわたしたちの命を豊かに祝福してくださいます。わたしたちの人生の歩みを確かに守り導いてくださいます。
(木下裕也)

〔今週の暗唱聖句〕

詩編 119編105節

あなたの御言葉は、わたしの道の光

わたしの歩みを照らす灯。



〈ねらい〉

神さまが十戒を授けてくださった経緯を学び、愛と恵みの言葉である「道しるべ」を与えられている幸いを覚える。

〈展開例〉

みんな十戒を覚えているかな。十戒は、「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である」という言葉ではじまっていましたね。今日は「わたしはあなたの神」と言ってください神さまが、私たちに十戒を与えてくださったときのお話です。

これまでお話を聞いてきたように、神さまは、モーセさんをリーダーにして、神さまを信じる人々をエジプトから救い出してくださいました。モーセさんたちがシナイ山というお山にいたとき、神さまが与えてくださったのが十戒です。十戒は、神さまから離れて迷子になったり、人間どうしでけんかして進めなくなってしまうことが無いように、神さまが与えてくださった「道しるべ」です。

十戒は二枚の石の板に書いてありました。

一枚目の石の板には神さまについての戒めが書いてあり、二枚目の石の板には人についての戒めが書いてあったのだと思います。

十戒は、モーセさんが生きていた頃の昔の人だけに与えられた言葉ではありません。イエスさまに救われ、今、生きている私たちにとっても「道しるべ」となる、神さまの愛と恵みの言葉なのです。

〈やってみよう〉

十戒が記された二枚の石の板の絵を描いてバラバラに切り刻んだものを用意し、ジグソーパズルのように、子どもたちに元通り並べさせて見よう。

〈お祈り〉

神さま、私たちが間違った道に迷いこんでしまわないように、十戒を与えてくださり、ありがとうございます。神さまが十戒にこめてくださった愛と恵みをしっかり受けとめて、迷子にならずに生きていくことができるようにしてください。アーメン。



〈ねらい〉

神様の大きな愛のことばとして、この十戒を受け取る子どもになろう。

〈はじめに〉

毎週続けて子どもたちは出席しているでしょうか。下級クラスでも、塾やクラブに参加する子どもが増えてきつつあるように思います。久しぶりの出席の子どももいるかもしれません。心からの歓迎を、あなたの変わらない愛と笑顔で、今日来た子どもたち一人一人に伝えましょう。何よりもイエス様御自身が喜んでくださっているのですから。

〈御言葉に聴きましょう〉

- ①イスラエルの人々はエジプトの国を出て三ヶ月たちました。どこに着きましたか。(1節)
- ②神様の所に行ったのは、誰ですか。(3節)
- ③20章2節をみんなで読みましょう。

〈展開例〉

イスラエルの人々は神様に助けられて旅を続けて3カ月ほどたちました。シナイの荒れ野に着きました。そこにはシナイ山と言う山がありました。モーセさんはそこに登って、神様とお話をしました。お話したことを山の下にいるイスラエルの人々皆に伝えました。みんなはモーセさんに言われて、体もお洋服もきれいに洗って清潔にして、神様にお会いする準備が始まりました。

山の周りに柵をぐるりと作って誰も入れないよ

うしました。三日たったその朝、あつい雲が山を包みました。雷がなって、稲妻も光って、山全体も激しく揺れて、みんなは恐ろしくて仕方ありませんでした。でも、モーセさんはまた山に登って行って、モーセさんを通して、神様は、「十戒」という神様の大事ないましめをお与えになりました。。これは今の私たちにも与えられている神様の変わらないいましめです。この十戒を覚えましょう。

今は車に「ナビ」という便利なものがついている車が多いです。お父さんお母さんの車にもありますか？ 教会の住所や電話番号を入力すると、自分の家から、教会までの地図が自動的に画面に映って、行き方を教えてくれます。全然知らない所でも住所さえ分かれば行く道をちゃんと教えてくれます。

神様が私たちにくださった「十戒」もそれと似てるかもしれませんね。神様とずっと一緒に生きるために、天国まで連れて行っていただく道、私たちがちゃんと、神様がおられる道を進んでいるかどうか、この十戒があることで知ることが出来ます。十戒は私たちが神様の子どもとして進む正しい道を示してくださるものです。十戒を私たちにくださるほどに、神様は私たちを愛して、大事に守ってくださるお方です。私たちがあっちに行ったり、こっちに来たり、フラフラ迷子にならないように、確かな道を教えてくださいました。神様ありがとうございます。

〈お祈り〉

神様、十戒をくださってありがとうございます。そして私たちを愛し、お守りくださるお方であることを心から感謝します。アーメン。



〈ねらい〉

イスラエルの民も、私達も神によって愛され、救われている。だからこそ、神を愛し十戒を喜びを以て守って行く。

〈ワーク〉

1. モーセさんは、() 山で、何を授かりましたか？
() の () です。
2. イスラエルの人たちは、() で、どんな生活をしていましたか？
() の生活でした。
3. その生活から () が () ってきて、() を目指して、旅をしています。
それは、神様が、イスラエルの人たちを () いたからです。
4. 十戒の前半は、() ～ () で、わたしと () の関係です。
十戒の後半は、() ～ () で、わたしと () の関係です。
5. わたしたちも () と () の中にいました。

そのようなわたしたちを神様は、() 様の () によって、() ってくださいました。

わたしたちは () に向かって生きています。神様は、わたしたちも () しておられるからです。

6. 救われた、わたしたちも () を愛して、() を喜んで () っていきましょう。

〈祈り〉

神様、私たちを愛して、主イエスによって救ってください、有難うございます。そのことを覚えて、神様から与えられた十戒を守り、神様の御国を目指して生きて行けますようにしてください。

〈答え〉

1. シナイ、十、戒め
2. エジプト、奴隷
3. 神様、すく、約束の地またはカナン、愛して
4. 一、四、神様、五、十、隣人
5. 罪、滅び、主イエス、十字架、すく、天国、愛
6. 神様、十戒、守



〈ねらい〉

十戒をくださった神様の愛に感謝する。

〈展開例〉

①「あれをしろ!」「これをしろ!」頭ごなしの命令とういのは気分の良いものではない。今日読んだ十戒もここだけスッパ抜けば、ただの命令調の文字である。法律や校則の命令文にはそんなニュアンスがあるかもしれない。でも、今日の十戒は神様の気持ちが込められた命令。なんで、神様はこんなことを命令されるんだろうか?聖書にはたくさん神様からの命令があるが、言葉の裏にある思いを知ることが大切。

②まず、十戒の序文に注目しよう。ここで言われているのは「私はあなた達を救いだしたあなたの神だ」という神様の自己紹介だ。神様は自分にとってどうでもいい者を救ったりはしない。神様は一緒に付き合い続けたい相手を救われる。そして、この神様はどこか自分と遠い存在ではない。神様は「私はあなたの神だ」と言われる。「私は大切なあなた達を救いだして、あなたの神となった存在だ」このような前置きのあとで十の戒めが語られる。

Q. 皆は「戒め」という言葉の意味を知っているか? どんなイメージがあるだろう? 懲らしめるとか、禁じる、こんな意味を思い浮かべるかもしれない。そういう意味もあるが、国語辞典を引くと「前もって注意すること」とある。つまり神様は「何か」に「前もって十の注意」を与えられたということ。「何か」とは何だろう?

③イスラエルは神様が約束された土地へ向かう途中であった。そこで神様はイスラエルの人々と一緒に最高の毎日を経ようとしていた。つまり「何か」とは神様と一緒に過ごす最高の日々

である。そのために前もって注意された10の戒めが「十戒」というわけだ。ということは十戒とは「あれはダメ、これはダメ」と生きることがを縛りつける教えではない。人が神様と一緒に最高の毎日を経ようするための道標、喜びの日々をつくりだす最高の教えというわけだ。

④聖書は他の箇所でも、十の戒めは「神様を愛すること」と「人を愛すること」の二つにまとめられている。だが「愛する」というのはわかるようで、わからない言葉かもしれない。「愛する」ことの中心は「相手を自分のように大切にすること」である。その大切にすることが十戒には込められている。君が誰かを大切にすること、君が神様を大切にすることが君の人生を左右する。

⑤最初に十戒の序文は君達を大切にしている神様の自己紹介だといった。私達は天地を創られそれを支配しておられる、驚くような御方とお互いに大切にしようとする道が与えられている。そして、そんな神様に大切にされている者どうしてもまた愛し合う道が与えられている。神様は私達が互いに大切にしようとするのを求められる御方である。君が神様を大切にするとき神様は喜びを覚えられる。君が人を大切にするとき、神様は嬉しさを覚えられる。君達も、大事な人が嬉しい顔をしていれば嬉しいだろう。大事な人が悲しい顔をしていれば悲しいだろう。神様が押してくださった神様が喜ばれるツボが十戒には秘められている。神様を悲しませるのではなく、神様が嬉しくなるような日々を求めたい。

〈祈り〉

愛することの下手くそな私達に愛し方を教えてください感謝します。日々の中であなたに喜んでもらう道を歩めますように。アーメン。